

学校施設のバリアフリー化推進に関する調査研究会議 田原優子 多久市教育長

学校施設に求められるもの

- ▶ 学びに集中できる環境
- ▶ 災害時に児童生徒・教職員の命を守ることができる機能
- ▶ 災害時の避難所としての機能
 - どなたでも利用できる
(高齢・発達障害・感染症・アレルギー・ハンデ・妊娠中・授乳中)
 - プライバシーを保護する

LGBT s の視点

インクルーシブ教育の視点

バリアフリーの視点

今日現在、対応が必要なリストから

- ▶ 一人一台のタブレット
- ▶ 高速大容量の通信ネットワークの構築
- ▶ エアコン設置
- ▶ トイレへの改修
- ▶ 水道蛇口の改修
- ▶ 体育館へのスロープ設置
- ▶ 階段等への手すりの設置
- ▶ コロナ対応避難所を想定した教室開放の対応準備
- ▶ 特別支援学級の増加に伴う教室の確保
- ▶ 遊具の安全性
- ▶ バリアフリー対応

コロナ対応
(GIGAスクール)

車いすを利用する児童の受け入れ (多久市の場合)

▶ 3階建ての校舎・・・エレベーターを設置した (H28~29)

▶ 国より 3分の1の補助

設置費用 約 3,900万円

実際の補助 約 600万円

建築単価 実情

● **建築単価を実情に合わせていただきたい**

学校の新築 補助率は2分の1
しかし、50～60年周期



- ▶ 増 築
 - ▶ 改 修
- } 補助を期待する
バリアフリーへの改修も含む

●バリアフリー化条件、増改築の補助率を高く

維持費用

- ▶ 従来の維持管理費
- ▶ GIGAスクール実現での通信費用
- ▶ 電気料金
- ▶ 更新費用
- ▶ 新型コロナウイルス感染予防の対策費用
水道の蛇口→水道代金

国の補助が予算では見えにくい状況に

- 「維持費用として確保できる」予算の仕組みに

学校施設のバリアフリー化を実現させるために

災害は 毎年 想定
感染症対策の避難スタイル
どなたでも利用できる学校・避難所に

新しい生活様式に！

感染症対策は一時しのぎではいけない。

今がバリアフリー化を推し進めるチャンス！！

▶ 学校施設は、学びの場。
そして、命を守る場。

▶ 国民の学びと命を守る！
国の責務として、覚悟をもった遂行を望む

コロナ対応に後押しされたGIGAスクール構想
のように

● **大胆な施策と予算獲得をお願いしたい**